

# 第2回コンパクトなまちづくり大賞 総合戦略部門 国土交通大臣賞 受賞者：富山市（富山県）

**受賞理由：**富山市では、早くから公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりに取り組んできており、路面電車の延伸等により都心地区や公共交通沿線居住推進地区の人口の転入超過が続く等の成果をあげている。また、令和2年3月路面電車南北接続事業の完成を控え、『とほ(富歩)活アプリ』(歩数、公共交通利用、イベントの通知や参加等によるポイントの取得等)の開発・運営により、公共交通の利用促進、歩くことによる健康増進(予防医療)、賑わいづくりのきっかけを提供する取組等、分野横断的な施策が展開されている点が高く評価されました。

## 1. 地区の概要と課題

本市は、可住地面積が2位(大都市を除く県庁所在都市中)、道路整備率が1位(都道府県中)、自家用車の普及台数が2位(都道府県中)であり、モータリゼーションの進展に伴い、都市構造は急速に拡散型となった。その結果、市街地は外延化し、過度な自動車利用を前提とした都市構造は、行政管理コストの増大はもとより、公共交通の衰退や中心市街地の空洞化など、都市全体に様々な課題を誘発することとなり、これらに対する解決策を提示することが求められていた。

本市では、平成22年(2010年)をピークに人口減少に突入り、令和27年(2045年)には人口が平成22年(2010年)比で約23%減少し高齢者の割合が約4割になると予測しており、生産年齢人口の減少による経済の縮小や高齢化による医療費や介護保険給付等の社会保障費の増大が懸念されている。

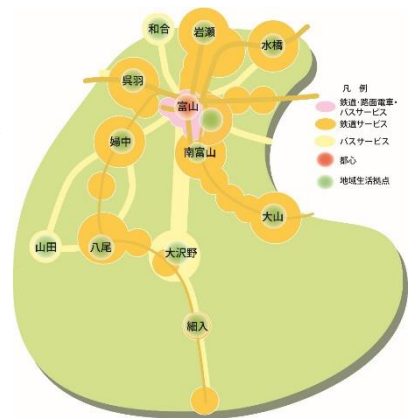
また、市街地の外延化を背景として、自動車への依存が高く、バス・鉄軌道などの公共交通が衰退した結果、車を自由に使えない市民にとって非常に生活しづらいまちとなっており、今後の高齢化により、車を自由に使えない市民がさらに増加することが予想される。

## 2. 取組概要

本市では、人口減少・少子高齢化が進行する中で、必ずしも自動車に頼らなくても歩いて暮らせる生活環境の形成を目指し、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させる「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を基本方針とした「富山市都市マスタープラン」を平成20年(2008年)3月に策定し、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり、いわゆる「お団子と串」の都市構造を目指してきた。

この実現のため、「公共交通の活性化」、「公共交通沿線地区への居住推進」、「中心市街地の活性化」を施策の3本柱に位置付け、様々な事業を展開してきた。

こうした取り組みに加え、平成28年(2016年)9月には「富山市公共交通網形成計画」を策定するとともに、平成29年(2017年)3月には「富山市立地適正化計画」を策定し、コンパクトなまちづくりを更に推進している。



お団子と串の都市構造 概念図

## 3. 発現した成果

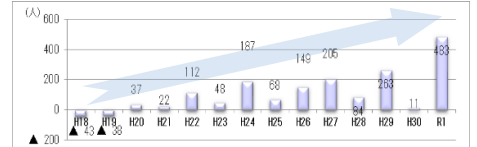
本市の都市マスタープラン及び立地適正化計画では、便利な公共交通沿線に住む人口の割合を平成17年(2005年)時点の約28%から令和7年(2025年)には約42%まで引き上げることを目標値とし、現在は38.8%(令和元年(2019年)実績)まで増加している。

また、居住誘導区域のうち、都心地区の人口の社会増減は、平成20年(2008年)以降、転入超過が続いており、公共交通沿線居住推進地区においても、平成24年(2012年)以降、転入超過の傾向となっており、さらに、都心地区と公共交通沿線居住推進地区を合わせた居住誘導区域では、平成28年(2016年)以降4年連続で人口増となっている。

こうした中、国の地価公示では、富山県全体の平均地価が平成5年(1993年)以降27年連続で下落しているのに対し、本市の地価は全用途平均で5年連続上昇する(北信越都市では本市のみ)など、まちづくりの取り組みの効果も近年徐々に現れてきている。

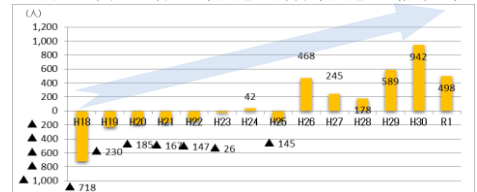
都心地区の社会増減(転入-転出)の推移

・平成20年(2008年)以降、転入超過が続いている。



公共交通沿線居住推進地区の社会増減(転入-転出)の推移

・平成24年(2012年)から転入超過以降、転入超過の傾向にある。



## 4. 今後の展開

今後は、これまでの取り組みに加え、市民が日常的に歩き健康に暮らせる新たなライフスタイルを提案するとともに、公共交通や予防医療、生活スポーツ、賑わいづくりなどの分野横断的な施策展開により、「歩きたくなるまちづくり」を推進することとしており、公共交通や地域コミュニティの活性化、健康寿命の延伸などにより、市民が暮らしの豊かさを実感できるまちの形成を目指している。

令和元年(2019年)からは、富山で歩く生活「とほ活(富歩)活」をキャッチコピーに、広く市民へ歩くライフスタイルの普及を図るとともに、歩くライフスタイルにつながるきっかけづくりとして、スマートフォンのアプリケーション機能を活用し、歩くことはもとより、公共交通を利用した場合やイベントに参加した場合などにポイントを付与し、そのポイントに応じて抽選により多彩な商品を贈呈することで、市民がまちを楽しみ、歩いて健康に暮らすライフスタイルを実践する1つのきっかけとなる取り組みを始めている。

この取り組みは、健康づくりはもとより、公共交通の利用促進やまちの賑わい創出、コミュニティの活性化など、健康づくりとまちづくりが融合した取り組みであり、本市の「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」や「健康(医療)・福祉・子育てを支えるまちづくり」に寄与するものと考えている。



「とほ活」ロゴ



富山駅南口駅前広場と「とほ活」パーナ



「とほ活」アプリ